

立ち読み版

“幸せ”の創出

スタートアップ経営者が挑む



角田千佳さん

株式会社エニタイムズ 代表取締役
株式会社Qnoir 取締役

つのだ

ちか

Interview

プロフィール：慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、野村證券株式会社、株式会社サイバーエージェントを経て、2013年5月に「豊富な幸せの尺度を持った社会の実現」を目指し、株式会社エニタイムズを創業。同年末、日常のちょっとしたお困りごとの手助けを必要とする人と、その依頼に応え多様な働き方を望む人をつなげるプラットフォーム「ANYTIMES」(エニタイムズ)をリリース。2015年3月に「ANYTIMES」スマートフォンアプリをリリース、2019年10月現在、6万人以上のユーザー登録を獲得。また、2019年10月に複合型シェアサロン「Qnoir」をグランドオープン。株式会社アドベンチャー監査役も務める。

[取材・文] 荒井由紀子 中小企業診断士 [写真] 田中和弘

— The prologue

スタートアップとベンチャーの違い、それは新たなビジネスモデルを創り出せるか否かであると言われていた。かねてよりシリコンバレーで活発だったスタートアップの世界だが、昨今、日本でもイノベーションと社会貢献を強く意識しながら急成長を狙う起業家が増えてきた。そして、キラリと光る起業家をいち早く見つけ、出資しようとするエンジェル投資家やベンチャーキャピタル(VC)、投資ファンドなどの動きも活発化してきている。

ご近所助け合いアプリ「ANYTIMES」で数々のメデ

ィアにも取り上げられる角田さんは、28歳の若さで一人起業した。大企業とベンチャー企業での就業を経て途上国支援を経験する中で、生活の豊かさと幸福度が比例しないことを強く感じ、人々の幸せを追求する新たなビジネスモデルの着想を得た。

最近では耳にすることも多くなってきた、シェアリングエコノミーや多様な働き方という概念を普及しながら、自ら考え出したビジネスモデルの実現に向け尽力している角田さんに国内スタートアップのリアルを伺った。

続きは雑誌で